

山梨県防災会議富士山火山部会 議事録

名 称	山梨県防災会議富士山火山部会		
日 時	平成 27 年 6 月 4 日 (木) 14:00 ~ 15:30	場 所	防災新館 412 会議室
出席者	委員等：堀内委員（部会長）、荒牧専門委員、安養寺専門委員、鵜川専門委員、大久保専門委員、服部専門委員、藤井専門委員、吉田専門委員 事務局：宮澤次長、山下課長、山下防災対策専門監、細田総括課長補佐、近藤主任		

1. 開 会(司会:細田総括課長補佐)

2. あいさつ(堀内理事・防災危機管理監)

・富士山噴火対策については、昨年 1 2 月からヘルメットやゴーグルの整備とともに観光客・登山者が突発的な噴火が発生した際の避難行動や避難支援の目安としていただくための「富士山噴火時避難ルートマップ」を検討してきた。マップの作成にあたっては、タイトな日程になっているが、今シーズンの山開きである 7 月 1 日に間に合わせていきたい。

3. 議 事

委 員

・登山者・観光客に対しては、富士山全体について統一的な情報を与えた方が良いと思うが、静岡県とはどの程度協議されたか。

事務局

・静岡県においても避難ルートマップの作成を検討していると伺っている。マップの標記の仕方については、統一していきたい。また、いずれは山梨県と静岡県の避難ルートマップの統一版ができればいいと考えている。

委 員

・今後改訂版ができると思うが、両県すり合わせてなるべくユーザーにとって一つの様式・凡例で分かるようにしていただくことが非常に重要だと思う。

部会長

・静岡県とも連携を図っていきたい。

委 員

・既存路マップには、接続ポイント間に距離が書かれているが、避難される方にとっては、(気分的には)距離よりも時間の方が分かりやすいと思う。既存路マップには林道が記載されているが、基本的には林道は使わないのか。

事務局

・既存路マップに移動時間を記載すると非常に細くなり見づらくなってしまふこと、また、登山客・観光客によって移動時間が一律ではないことから、今回は距離を記載した。林道は徒歩での通行が可能であることから、噴火時の避難ルートとして活用する。

委員

・林道の行き止まりにポイントを標記する必要があるのか。

事務局

・ポイントは自分の現在地を表現したり、避難方向を指示するために、(基本的に)道路の起点終点及び交差点に設定している。

委員

・A4版の噴火パターン図とA2版(富士山噴火時避難パターン(裏面))の噴火パターンの概要図の番号の整合性が取れていない。また、A2版(富士山噴火時避難パターン(裏面))の噴火パターンは、避難パターンの間違いではないか。

部会長

・ご意見を基に修正する。

委員

・A4版の噴火パターンですが、噴火パターンより火口の位置のパターンという言葉を使った方が良いのではないか。

部会長

・A4版の噴火パターンは、噴火パターンを検討している際に使用した資料の一部であり、外へ出すものではない。外へ出すのはあくまで、既存路マップと富士山噴火時避難ルートマップ。

委員

・地図上に表示した接続ポイントは現実の道路にも標示されるのか。

事務局

・道路標識は設置していない。今回は避難方向を説明する目安として地図上にポイントを標記した。表紙にその旨を記載したが、利用者に誤解を与えてしまう可能性がある。記載内容の修正等を検討する。

委員

・道標については、許認可等の問題があるので直ぐには設置ができないと思うが、地図上に表示したポイントが道路上にもあるという方向にもっていただきたい。

・接続ポイントは地図上のものであると標記していただきたい。

・マップを改訂したことが分かるように、表紙に 年版と記載できないか。

事務局

- ・ 年版と標記するようにしたい。

委員

- ・ 富士スバルラインには距離が書いてあるが、林道には書いていない。林道も人が歩くことを考えると目安となる距離も必要になると思うが。

事務局

- ・ 噴火時には林道を使うことになるが、平常時は原則としてゲートがあり、誰でも入れるわけではないので、距離の表示を省略した。

委員

- ・ 「静岡県で噴火した場合や噴火警戒レベル3以上が発表された場合等には、それぞれの下山道を使って速やかに下山して下さい。」というような記述もした方が良いのではないか。
- ・ 噴火した時に登山者（個人）が噴火パターンを読み解いて、避難することは非常に難しいと思う。将来的には、現地にキロポスト（道標）を標示するとともに、このマップを活用した山小屋組合や五合目のお土産屋さんの方々との情報伝達や避難誘導の訓練をしていくべきだと思う。

事務局

- ・ 避難訓練や関係者間での共通認識を図るための基礎資料として活用していく。

委員

- ・ 今回は登山者・観光客が自主的に徒歩で避難することを前提に作られているので、それは結構なことだと思う。しかしながら、夏場には五合目にハイヒールを履いた観光客がたくさんいるので車を使っての避難も考えるべき。このマップの作成によって、林道と避難路（富士スバルラインや登山道）の関係が分かるようになったので、今後は、車で避難させるための検討（交差点（ジャンクション）や道路の整備等）をしていただきたい。

委員

- ・ 避難パターンについては、避難経路を表すような番号の付け方をしないと混乱を招く恐れがあるため、工夫した方が良いのではないか。

部会長

- ・ 検討させていただきたい。

委員

- ・ A2版（富士山噴火時避難パターン（裏面））の「図の見方と記号の意味」の火口列

(ピンク実線)にある噴出中心を示す赤点はいらないのでは。また、「図の見方と記号の意味」と「前提とする噴火のイメージ」の火口列の表示の仕方(見せ方)が違うので利用者が迷ってしまうのではないか。

部会長

- ・検討させていただきたい。

委員

- ・将来的には、英語バージョンや中国語バージョンとかも検討していただきたい。

事務局

- ・検討させていただきたい。

委員

・登山者や観光客が噴火についての情報を得るためのサイトを記載することはできないか。

事務局

- ・検討させていただきたい。

部会長

・避難路や整備の整備、情報の伝達方法等の課題がある。専門委員の方々には、7月以降に開催する富士山火山部会において、課題等を整理した検討報告書をまとめていただきたい

4. その他

5. 閉 会